



地域なんでも情報局

令和6年8月16日発行
長崎市社会福祉協議会
長崎市恵美須町4番5号
☎095-828-1281

災害ボランティアセンター設置・運営訓練

近年日本各地で自然災害が頻繁に発生しており、災害ボランティアセンターへの応援派遣の依頼に基づき、本会からも能登半島へ職員を派遣しています。

長崎市内でも、いつ災害が発生し、災害ボランティアセンターを設置・運営する状況となってもおかしくありません。そのため、本会では、いつでもボランティアを運営できる体制を整える必要があることから、6月22日(土)、大雨に伴う大規模災害発生を想定し、被災者支援のボランティアを受け入れる「災害ボランティアセンター」の



設置・運営訓練を東公民館で実施しました。

今回の訓練には県社協、市職員をはじめ、ライオンズクラブ国際協会や青年会議所などの関係団体へ呼びかけ総勢約90人の参加となりました。

参加者はスタッフ役とボランティア役の両方を経験し、同センタースタッフとしての動き方を学び反省点や課題について共有しました。

具体的には「ボランティア受付班」、ボランティア活動をする上での注意事項を説明する「オリエンテーション班」、被災者のニーズとボランティアを組み合わせる「マッチン

グ班」、案件ごとの作業内容に応じた必要人数の調整を行う「グループピング班」必要な資機材の調達、貸し出しを担当する「資機材班」、救援活動後の内容を確認する「活動報告班」、被災者からの依頼の受付を行う「ニーズ班」に分かれ、それぞれ自分の担当の役割をマニュアルで確認しながら訓練に臨みました。

今回の訓練を通して、いざというときに災害ボランティアセンターを円滑に設置・運営できるように、関係団体と協力し顔の見える関係づくりをしながら有事に備えることが大切だと改めて感じました。今後もこのような機会を定期的に作って有事に備えていきます。(岩崎 くるみ)



来てみて見んね! 稲佐のまちへ

稲佐小校区まちづくり協議会・健康福祉部会は、自分の住む町の価値を再認識して活性化しようと初のイベントである「いなさ健康フェスタ」まち歩きウォークラリーを開催しました。

6月8日(土)に稲佐地区の住民60人が小雨の中、稲佐地域コミュニティ消防センターに集まりました。

受付の後、小江原中央病院の竹下公一朗先生による健康講話と準備運動を兼ねたストレッチで汗を流した後、5つの班に分かれて散策を始めました。

稲佐地区は1853年のロシア海軍軍人のプチャーロシアンをチャンスと捉え、この夏までにマップを完成させて、長崎駅観光案内所及び長崎スタジアムシティ・市内のホテル等に置いてもらって、「長崎を訪れる人達に対し、スタジアムシティだけでなく、少し足を延ばして稲佐のまちを散策してもらいたい。」と今後の意

気込みを語られていました。(本村 信幸)



当会ホームページから「地域なんでも情報局」バックナンバーがダウンロードできます!
「長崎 地域なんでも情報局」で検索♪
下記QRコードからも見られます。



寄ってかんね 横尾4丁目カフェ

閑静な住宅地にある横尾西部自治会集会所は、週に2回カフェに変わります。日常の喧騒を離れ、温かい雰囲気の中でコーヒーなどを楽しみながら、ご近所さんと語らうことができるこの場所は地域の絆を深める新たな拠点となっています。

今年の4月に誕生した「横尾4丁目カフェ」は、毎週火曜日と金曜日の14時から16時まで、住民たちが気軽に集まり、リラックスできる場を提供しています。お客さんはそれぞれの楽しみ方で時間を過され、お喋りに花を咲かせる方や雑誌を読む方、トランプを楽しむ方もいらっしゃいます。カフェの発起人の一人であり、地域の民生委員児童委員である鈴木あきさんは、「コロナの前までは、仲間たちと一人暮らし高齢者の



食事会を約8年間していたんです。でも、コロナがあつて集まることがパツタリ無くなつてしまいました。コロナも終わつて、地域で集いの場が必要だと思つて、サロンのように活動が決められていない、気軽に参加できる場を作りたくて始めました。」と語られています。

仲間から、「参加者が一人でも、続けていくことが大事」と言われたことで、たとえ一人でもこのカフェを必要としてくれる人のために活動をがんばつていきたいと思つているそうです。皆さんも、この素敵な空間を訪れてみてはいかがでしょうか。

生活支援コーディネーター
(福田 耕平)

びじざん会 ニューアル

5月22日に、参加者の減少からふれあい食事サービス“ひこさん会”の継続が難しくなり、住民の皆さんが気軽に参加でき、多くの方が楽しめる高齢者ふれあいサロン“ひこさん会”として再出発しました。

食事サービスの利用者から、「みなさんとの集いは楽しい。」「こんな機会は無くしてほしくない。」との強い要望を受け、ボランティア、地域包括支援センター、市社協で協議を重ね、この日を迎えました。

当日は、地元の方々がお祝いに駆けつけ、桜馬場地域包括支援センターが手作りで準備された“くす玉”を参加者の手で割られたのを皮切りに、長崎リハビリ



「リーチ!」「ロン!」の声飛び交い、慣れた手つきで麻雀牌が置かれています。今回、浪の平地区の高齢者サロン「つばき会」を取り上げます。毎週金曜日に開催しており、参加者は約40名です。特徴として、参加者がサロン内容を自由に選んでいる点が挙げられます。

まず、参加者全員でラジオ体操を行った後、一方ではリッパトレーニング、出前講座、踊りの練習。隣の和室では健康麻雀が開催されています。参加者は「楽しい趣味ができた。」「最初は難しかったけど、やり方を教えてもらって少しずつ上達できたことが嬉しい。脳トレにもなってる。」と話されていました。麻雀には様々な打ち方や遊

地域ではさまざまな活動が行なわれています。地域での活動が変わったとしても、地域の集まる場に気軽に参加したいという思いを大切に、地域の中で繋がる場を地域の皆さんと一緒につくっていききたいと思っています。

生活支援コーディネーター
(溝田 聡美)

選べる高齢者サロン



び方がありますが、参加者は周りとの近況を交わしながら楽しんでいきます。サロンは12時までですが、残った参加者で、延長戦に突入し、この日は、14時頃まで対戦が繰り返されていました。

このように自然と第二の居場所となつていくことが伺えます。最初は数人の参加であった麻雀も口コミが広がり、今や13名もの男性が参加されています。また、参加者全員が名札をつけるため、名前で呼び合う関係になつていきます。「参加者ができる範囲内で無理なく楽しむことが何より大切」だと気付かされました。

生活支援コーディネーター
(山口 愛莉)